



Life with Sports



スポーツ
ともだち
仲間たち



Saitama Junior Sport Clubs Association



NO.66

PICKUP PHOTO

上段：空手道場彩
下段：(左) 伊奈Gスターズ、(右) 越谷イーストスターズ

新たなふれあいを生む 『野外活動』を取り入れながら

みなさんの少年団では、主として行っているスポーツ活動の他に、どのような活動を行っているでしょうか。季節ごとのイベントや、レクリエーション活動を行っている団も多いかもしれません。もう少し規模の大きいイベントでいうと、「野外活動」と呼ばれるものがあります。野外活動では、キャンプやハイキング、オリエンテーリングなどを通して、自然の中でのびのびと過ごすことができます。日常生活とは異なる日々を送ることで、団員同士の新たなふれあいを生み、つながりを深め、より充実した団活動を実現することができるでしょう。これからの季節、合宿などと併せて、「野外活動」にチャレンジしてみてもいいでしょうか。

特集

- ◎ **指導者資格制度の変更について**
- ◎ **スポーツ少年団活動の今後の在り方について**

活動報告

- 福島県スポーツ少年団交流事業
- 令和6年度事業計画

埼玉県スポーツ少年団だより
2024年(令和6年)5月31日発行
右記の県スポーツ協会ホームページ
からも情報誌をご覧ください。



スポーツくじ



本紙はスポーツ振興くじ助成金を受けて作成しております。

この情報誌は各単位団へ3部ずつ配布しています。指導者・母集団で閲覧しましょう。

発行元：公益財団法人埼玉県スポーツ協会埼玉県スポーツ少年団

指導者資格制度の変更

令和2（2020）年度から新設された、スタートコーチ（スポーツ少年団）資格について、令和6年度より資格名称が変更され、養成講習会のカリキュラムが一部変更されます。これは、令和2（2020）年度～令和5（2023）年度の養成結果からみえてきた課題に対応するために変更が行われます。

スタートコーチ（スポーツ少年団）の課題

この資格は、“スポーツ少年団内のみで通用する資格ではなく、広くスポーツ界で通用する公認スポーツ指導者資格”として養成を開始しました。その特徴は、スポーツ少年団員の年齢層となるジュニア・ユース期※1のスポーツ活動で配慮すべき項目がカリキュラムに含まれていることにあります。ジュニア・ユース期のスポーツ指導に関わるすべての人が学ぶことを期待されている資格ですが、資格の名称を（スポーツ少年団）としていることで、スポーツ少年団登録者（登録希望者）以外の受講をしにくい状況にしています。

※1 ジュニア・ユース期は、3歳から概ね18歳までの年齢と定義しています。

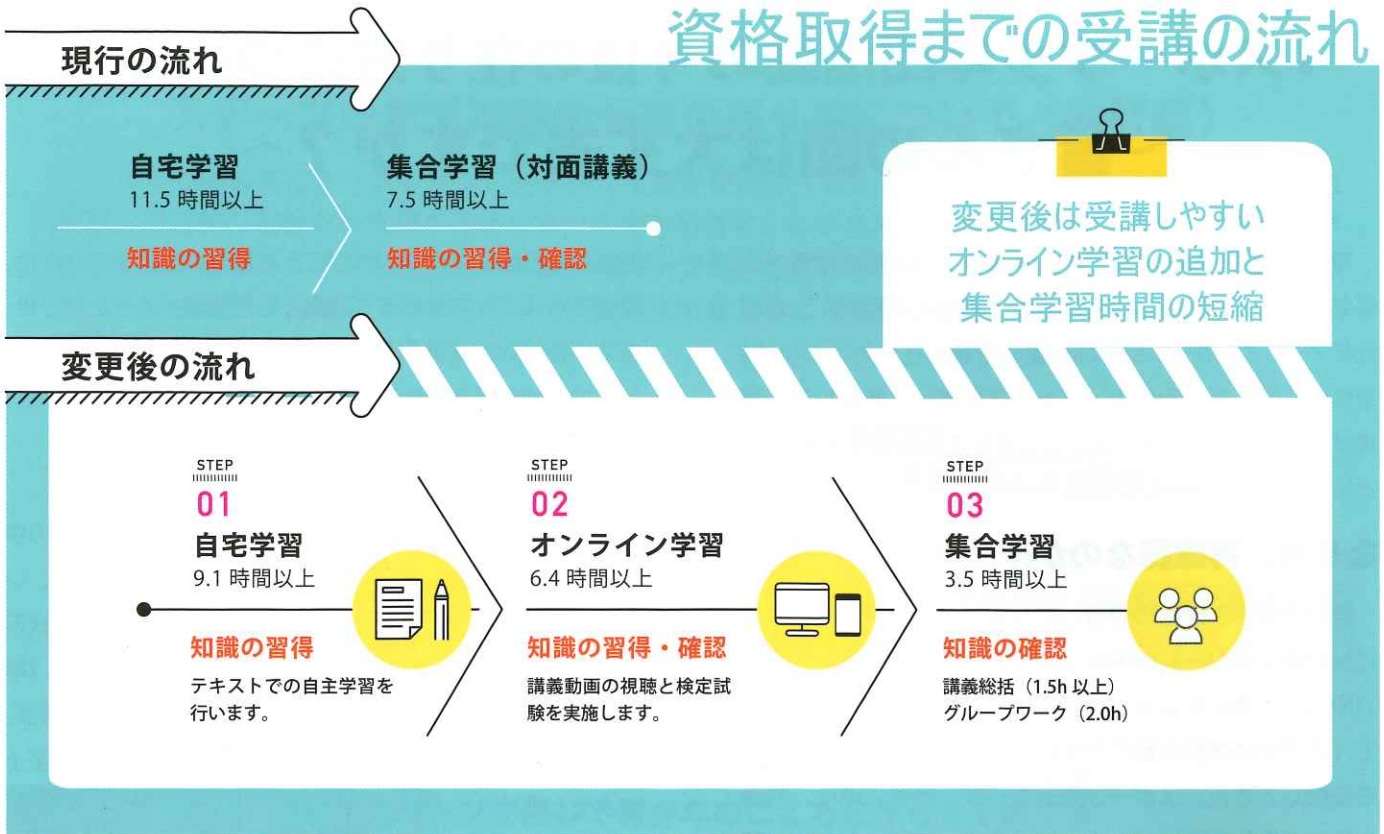
スポーツ少年団の今後の方向性

スポーツ少年団では、「スポーツ少年団改革プラン 2022」を策定し、「日本のジュニア・ユーススポーツの中核組織（統括組織）へ拡充」することを目指しています。また、他の地域で活動する組織・団体との連携（総合型地域スポーツクラブとの登録制度上の統合）などに取り組むこととしています。スポーツ少年団が部活動の地域移行・連携の運営団体・実施主体として期待されており、スポーツ少年団の枠を超えて地域で活躍できる人材を育成することが必要となってきています。

以上のことから、資格名称を「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」に変更し、一部カリキュラム内容を変更することで、スポーツ少年団未登録チーム関係者や総合型クラブ関係者のような方も受講をしやすくすることを狙っています。

また、これまで終日かけて養成講習会（集合講習）を実施してきましたが、オンデマンド動画教材を活用した自宅学習を取り入れることで、集合学習の時間をコンパクトにし、受講者の負担軽減を図っています。（次ページ図のとおり）

資格取得までの受講の流れ



これまでは、7.5 時間以上の集合学習（対面講習）が必須でしたが、今回の変更で、オンデマンド動画による講義動画の視聴に変わります。これにより、ご自身のパソコンやタブレット等で都合に合わせて学習ができます。また、必要時間数も 6.4 時間に短縮され、検定試験もオンラインで行います。オンライン学習の成果の確認と知識の定着を図るため、1.5 時間以上の講義総括と 2.0 時間のグループワークを集合学習にて行います。従いまして、集合学習は半日で終了することとなります。

専門科目カリキュラムの変更

	現行	変更後
カリキュラム	<ol style="list-style-type: none"> スポーツ少年団の理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> スポーツ少年団の理念・意義 日本スポーツ少年団指導者綱領・団員綱領 ジュニア・ユース期のスポーツ指導 <ol style="list-style-type: none"> 発育・発達に合わせた指導 アクティブチャイルドプログラム (JSPO-ACP) 運動適性テスト II 安全・安心なスポーツ環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> リスク管理 反倫理的行為の根絶 	<ol style="list-style-type: none"> ジュニア・ユーススポーツの理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> ジュニア・ユーススポーツの理念・意義 ジュニア・ユーススポーツ組織と運営 ジュニア・ユース期のスポーツ指導 <ol style="list-style-type: none"> 発育・発達に合わせた指導 アクティブチャイルドプログラム (JSPO-ACP) 運動適性テスト II 安全・安心なスポーツ環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> リスク管理 反倫理的行為の根絶

今後策定するジュニア・ユーススポーツ憲章に合わせて、カリキュラムの再編成を行う予定。令和 6 (2024) 年度は、スポーツ少年団の理念と意義と併せて学習することを想定しています。

少年団再確認！

『スポーツ少年団活動の今後の在り方について』

～皆さんの団は大丈夫ですか？～

埼玉県スポーツ少年団では、スポーツ少年団の在るべき姿を原点に立ち戻りながら再確認することを目的に、令和元年7月、『スポーツ少年団活動の今後の在り方について』を作成しました。その後、ジュニアスポーツを取り巻く環境が様々な分野で大きく変化してきたことを受け『改訂版』として見直すこととしました。

なぜ今、再確認なのか？

笹川スポーツ財団の発行した『オリンピック・パラリンピックのレガシー』の中に「スポ少こそ東京オリンピック（1964）が残したレガシー」という言葉があります。そして「スポ少は学校活動の枠を超えてスポーツに親しむ機会を提供してきた。スポーツのみならず、音楽に奉仕、共通学習など活動範囲も広い。」と紹介しています。しかし、続く文章には「エリート育成ではなく、スポーツに親しむ機会の少ない子どもたちに機会を提供し、後の人生を豊かにしていくための場であったスポ少が、競技性志向の強まりによって組織自体を変えている。」としたうえで「競技性志向は、スポーツをする子としない子に分け、さらにスポーツのできる子とできない子に分けてしまう。」と警鐘を鳴らしています。そして、スポーツ少年団の団員がピーク時の

112万人から65万人に激減しているのは単に少子化の問題だけではなく、この競技性志向も原因の一つだ



と厳しく指摘し、スポ少の在り方再考を促しています。一方、日本スポーツ少年団でも『スポーツ少年団改革プラン2022』を示し今後の在り方について検討に入っています。

スポーツ少年団が目指してきたもの

スポーツ少年団は先の指摘にもあったように『一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供する』ことを理念の一つとして発足した団体です。中心となるスポーツ活動のほか、体力テスト、レクリエーション活動や野外活動、学習活動や文化活動・社会活動など少年期に必要な様々な共

通活動を計画的に取り入れることを推奨しています。また、希望すれば成人になるまで団員として登録することができ、まさに後の人生を豊かにしていく生涯スポーツの入り口としての役割を担う団体を目指してきました。

現状を分析すると

近年、先に示した共通活動を年間・月間プログラムの中に取り入れられない団があるとの指摘があります。さらに、いつしか小学校卒業と同時に団をやめなければならない状況が『卒団』という造語によって正当化されるようになり、『卒団式』といった儀式まで行われるようになりました。これは、リーダー育成にも支障をきたしています。また、勝利至上によると思われるスポハラ、長時間練習や猛暑の中での活動など不適切な指導が地域や保護者から強い批判を受けるようになってきました。



スポーツを楽しむためにスポーツ少年団に入ろうとしても、団の目指すものが異なるため、入りたくても入れない子どもたちが、まだまだたくさんいるのではないのでしょうか。

『改訂版』発行にあたって

今回、皆さんに示した『スポーツ少年団活動の今後の在り方について（改訂版）』は日本スポーツ少年団が発行するガイドブック『スポーツ少年団とは』からの抜粋がほとんどです。『スポーツ少年団改革プラン2022』に関する部分を除けば、その多くは、スポーツ少年団ができた当初から変わらないものです。ジュニアスポーツが大きく変わろうとしている今だからこそ、それぞれの市町村・単位団が今一度原点に立ち戻り、スポーツ少年団普遍の理念を再確認したうえで、これからの運営をどのように進めていくかを考えなければならない時期にきているのだと思います

スポーツ少年団活動の今後の在り方について（改訂版）

1964年の東京オリンピックに先がけてその2年前の1962年、「スポーツによる青少年の健全育成」を目的に創設されたのが日本スポーツ少年団です。2022年には60周年を迎え、創設から半世紀以上が経過して子どもたちを取り巻くスポーツ環境も大きく変化してきました。この機会に、本来スポーツ少年団が目指しているものは何かを原点に立ちもどりながら確認し、これからのスポーツ少年団活動の在り方を考えていきたいと思えます。

「スポーツ少年団改革プラン2022」

『ジュニア・ユース世代にスポーツの本質である自発的な運動の楽しさを提供しよう』

「改革プラン2022」が意図するスポーツ少年団の方向性

スポーツ少年団は、勝利至上主義を否定し、スポーツの本質である自発的な運動（遊び）から得られる「楽しさ」を享受できる機会をジュニア・ユース世代に提供する。

スポーツ少年団の理念

- ◆一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する
- ◆スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる
- ◆スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する（平成21年6月追加）

スポーツ少年団は**競技団体ではなく**、子どもたちの健全育成を目指す**青少年団体**です

スポーツ少年団活動は

主となるスポーツ活動のほか体力テスト（運動適性テストⅡ）、レクリエーション活動、野外活動、学習活動、文化活動、社会活動などが月間・年間を通して計画的に位置づけられていなければなりません。

スポーツ少年団の中心となる小学生にとって理想の団活動とは

- ①自主的・自発的で、かつ身体的・精神的に無理がなく、**意欲を持って参加できる活動**であること。
- ②平日は1日**2時間**程度、休日は1日**3時間**程度まで、1週間に**2、3回**が無理のない活動。
- ③WBGT**31℃以上**（熱中症予防運動指針「危険」）では特に子どもの場合は**活動を中止**すべき。
- ④単一種目のみを行うのではなく、**遊び**を取り入れた**多種多様な動き**のできる活動を行う。

皆さんの団は大丈夫ですか？

- ※ 勝利至上主義になっていませんか？ 勝ち負けが団の話題の中心になっていませんか？
- ※ スポーツのやりすぎによって心身に障害をおこしている団員はいませんか？
- ※ 小学生の活動で中学校の部活動より活動時間や活動日数が多くなっていませんか？
- ※ 猛暑の中で活動していませんか？ 熱中症になった団員はいませんか？
- ※ 主となるスポーツ活動のみで年間の活動が構成されていませんか？
- ※ 指導者、役員・スタッフ、育成母集団の過大な負担や犠牲のうえに団運営が成り立っていませんか？
- ※ 県・市町村本部が行う交流事業や育成事業に積極的に参加していますか？

★将来に向けたリーダーの育成★

スポーツ少年団は**生涯スポーツの入口**として、本来は中・高校生でも団員として登録ができる団体です。小学校卒業と同時に終わっている事例が多い「**卒団式**」「**退団式**」はやめたいものです。中学校部活動の地域移行や若い指導者を育てるという意味からも**リーダー育成は重要な視点**です。

● 福島県・埼玉県スポーツ少年団交流事業兼福島県スポーツ少年大会

1月20日(土)～21日(日)国立磐梯青少年交流の家で開催された福島県・埼玉県スポーツ少年団交流事業兼福島県スポーツ少年大会に団員40名、指導者5名で参加しました。

屋外でのそり遊びや雪合戦であつという間に県の垣根はなくなり、夜にはキャンドルファイヤーでレクやダンスをやってより子供たちの距離が近づきました。2日目は地元民芸品の赤べこ作りを体験し、福島の文化に触れることもできました。短い日程でしたが、福島の皆さんの温かいおもてなしに深く感謝し、これからも子供たちが交流できる事業を大切にしていきたいです。



● 第41回埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会

2月11日(祝)、熊谷スポーツ文化公園において第41回埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会が4年ぶりに開催されました。県内東西南北全てのブロックより男子17チーム、女子12チームが参加。6区間×2kmの特設コースで駅伝競走が行われ、男女ともにファイト川越が優勝しました。

この大会は地域・種目の枠を超えた交流を目的としており、男女別に4年生～6年生の団員が6名以上在籍する県内のスポーツ少年団であればエントリー可能です。



● 令和5年度埼玉県スポーツ少年団登録者研修会

令和6年1月27日(土)にウエスタ川越にて令和5年度埼玉県スポーツ少年団登録者研修会を実施いたしました。第1部では、東京家政学院大学教授 田中千晶先生を講師としてお迎えし、「子ども・青少年の身体活動の現状と今後の展望～コロナ禍を超えて、我々指導者に求められること～」をテーマにご講義をいただきました。第2部では、「スポーツ少年団をめぐる最新の動向と理念の確認」をテーマにお話をさせていただきました。

この研修会は、指導者資格の更新に必要な更新研修に位置付けてあります。安全で健全な指導をするために、学び続ける指導者が求められております。今年度以降も実施していく予定ですので更新時期に関わらずご参加お待ちしております。

令和6年度事業計画

1. 埼玉県スポーツ少年団大会の開催【100周年記念事業】

- (1) 埼玉県スポーツ少年団種目別大会の開催(13種目)〔日程〕令和6年4月～令和7年3月
- (2) 第55回関東ブロックスポーツ少年大会兼第37回埼玉県スポーツ少年大会〔日程〕9月14日～16日
※令和6年度は関東ブロック大会主管県のため県大会と合同開催とします。

2. 第51回日独スポーツ少年団同時交流事業

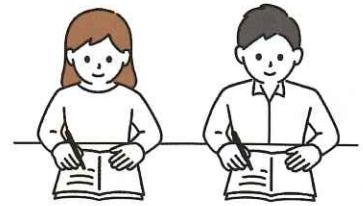
- (1) 派遣事業〔日程〕7月29日～8月15日〔場所〕ドイツ連邦共和国〔人数〕指導者1、団員2名
- (2) 受入事業〔日程〕7月26日～7月30日(4泊5日)〔受入本部〕埼玉県スポーツ少年団

3. 指導者養成・研修事業

- (1) スタートコーチ (ジュニア・ユース) 養成講習会 (県本部開催：1 コース 市町村開催：12 コース)
- (2) スタートコーチ (ジュニア・ユース) インストラクター研修会
ア 日本スポーツ少年団主催の研修会 [日程] 10月～11月 再委嘱研修会：1日間 講習会：2日間
イ 埼玉県スポーツ少年団主催の研修会 [日程] 調整中
- (3) 埼玉県スポーツ少年団登録者研修会 [日程] 調整中
- (4) 運動適性テストⅡ普及研修会 [日程] 調整中
- (5) アクティブ チャイルド プログラム普及研修会 [日程] 10月19日・令和7年2月1日
※日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修
- (6) 研究大会等派遣
ア ジュニアスポーツフォーラム派遣 [日程] 6月16日
イ 関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会 [日程] 11月23日～24日

4. リーダー養成・研修事業

- (1) シニア・リーダースクール派遣 [日程] 8月8日～11日
- (2) ジュニア・リーダースクールの開講
ア (中学生対象) ジュニアリーダースクール (県本部開催)
イ (小学生対象) ジュニア・リーダースクール補助事業 (助成 (補助) 事業)
- (3) 全国スポーツ少年団リーダー連絡会 [日程] 11月10日
- (4) 関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会 [日程] 10月19日～20日
- (5) 埼玉県スポーツ少年団リーダー会の育成



5. スポーツ少年団補助事業

市町村スポーツ少年団主催の下記事業に対し、運営費の一部を助成
※いずれの事業も対象期日は令和6年4月1日～令和7年3月31日

- (1) 地域活性化事業
- (2) 登録指導者研修事業
- (3) 母集団研修事業
- (4) リーダー育成事業



6. 国内交流大会派遣事業

- (1) 全国スポーツ少年団大会 (リーダーズアクション 2024) [日程] 7月27日～30日
- (2) 関東ブロックスポーツ少年団大会 (野外活動の大会) [日程] 9月14日～16日
※令和6年度は関東ブロック大会主管県並びに県大会との合同開催のため「1 埼玉県スポーツ少年団大会」に記載
- (3) 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 [日程] 8月1日～4日
- (4) 全国スポーツ少年団剣道交流大会 [日程] 3月28日～30日
- (5) 全国スポーツ少年団バレーボール交流大会 [日程] 12月27日～30日
- (6) 関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 [開催期日] 7月14日～7月28日



7. 埼玉県スポーツ少年団表彰

[日程] 令和7年2月18日

8. 日本スポーツ少年団顕彰

伝達式…埼玉県スポーツ少年団表彰において実施をする

9. 「スポーツともだち仲間たち」の発刊

[発刊時期] 5月、9月、1月

10. 埼玉県スポーツ協会創立100周年記念事業

- (1) 創立100周年記念大会 [日程] 令和6年4月～令和7年2月末
- (2) 創立100周年記念特別観戦事業 [日程] 令和6年4月～令和7年2月末
- (3) 創立100周年記念特別事業 運動あそび普及事業 [実施期日] 令和6年4月～令和7年3月末

スポ少フォト 募集中!

表紙等、本情報誌に掲載する写真を募集します。

応募方法と注意点は以下の通りです。たくさんの応募をお待ちしています。



応募テーマ

スポーツ少年団活動

応募期間

令和6年8月2日(金)まで

応募方法

撮影した写真データを、県スポーツ少年団事務局宛に電子メールで送付してください。
なお、メール本文には、以下タイトルと①～④の必要事項をご記入ください。

メールタイトル スポ少フォト申し込み

必要事項

① 市町村名 ② 単位団名 ③ 団代表者氏名 ④ 写真タイトル



県スポーツ少年団事務局

sjsa@saitama-sport.org

- ・応募する写真データの容量は3メガバイトまでとしてください。
- ・写っている人物に許可をとってから応募してください。
- ・掲載が決定した写真および我が団自慢の応募者にも、掲載決定のご連絡をさせていただきます。
- ・応募写真等の著作権は埼玉県スポーツ少年団に帰属し、「情報誌：スポーツともだち仲間たち」に使用させていただきます。

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

